

カムリウミスズメ

—ふるさとの自然を愛する気持ち—

- 1 学年 第8学年〔後期〕
 2 主題名 自然愛護〔3－(2)〕
 3 ねらい 倉橋の海に住むカムリウミスズメの存在を通して、ふるさとの自然の大切さに気付き、豊かな自然を守ろうとする実践意欲を育てる。
 4 資料名 「カムリウミスズメ」
 5 展開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 絶滅が危惧されている生物について知る。 ○ ここに挙げられた動物の共通点は何だと思えますか。	<ul style="list-style-type: none"> 見たことのない生き物 日本に住んでいる生き物 数が少なくなっている生き物 	○ 動物当てゲームをして、絶滅が危惧されている生物に関心をもたせる。
展 開	2 資料「カムリウミスズメ」を読んで話し合う。 ○ 「僕」はどんな気持ちで船に乗りたくなったのでしょうか。 ○ 「僕」は住職さんの話を聞いて、どんな気持ちだったでしょう。 ◎ 「僕」がいつも見ていた倉橋の海が、今日は少し違って見えたのはなぜでしょう。 3 カムリウミスズメが観察できるふるさとの海をどう思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> おじいちゃんの話聞いて興味を持った。 大学の先生たちが見に来るほど珍しい鳥なら、一度見てみたいと思った。 自分たちが、カムリウミスズメを絶滅させてしまうかもしれないと聞いて、びっくりした。 僕たちの世代で、絶滅させてしまっってはいけない。 絶滅するかもしれない鳥が倉橋の海にいることを自慢に思った。 いつも見慣れた海だが、ここにはいろんな生き物が住んでいることに気付いた。 倉橋の海が豊かな海だということに、今まで気付いていなかった。 自分たちが、この海を大切にしなければ、生き物たちがいなくなると真剣に考えたから。 ふるさとの自慢だ。 海浜清掃などに積極的に参加して海を守っていきたい。 日頃から環境のことを考えて行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「僕」の心情に共感させながら考えさせる。 ○ 豊かな自然を守ることと、自分たちの行動が、深く関わっていることをおさえる。 ○ いつも何気なく見ている海が、豊かな海であるということに注目させ、ふるさとの自然の大切さに気付かせる。 ○ カムリウミスズメを守ることは、自分たちが暮らす地域の自然環境全体を守ることにつながることに気付かせる。
終 末	4 倉橋のすばらしい自然風景を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとの自然の豊かさを改めて感じる事ができた。 	○ 倉橋の自然の四季折々の様子を見せることで、地域の自然のよさを再確認させる。

6 授業の概要

(1) 主題について

倉橋島は、遣唐使船に象徴されるように、古くから造船がさかんであり、現在も海運や漁等、海に関わる仕事に携わる人も多い。生徒も海で遊んだり、海の恵みを収穫したりする等、海は生活に密着した、非常に身近な存在である。近年、環境保護が叫ばれる中、倉橋の海域には、世界的に見ても保護上の優先度が高い絶滅危惧Ⅱ類に指定されているカンムリウミスズメが生息していることが分かった。カンムリウミスズメの存在を通して、自然の大切さについて考え、どのように地域の自然環境を守っていくのかを考えさせたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用の時期や行事との関わり

本校では、毎年夏休み前に桂浜の海浜清掃活動を小学生と合同で行っている。地域の行事として桂浜の海岸で、遣唐使船まつりが行われるのもこの時期である。また、夏休みには海水浴など海で遊ぶ生徒も多いこととも関連付けたい。



イ 映像の活用

自分たちの暮らす地域の自然の美しさや豊かさを感じ取らせるために、映像資料を活用するととても効果的である。四季折々の地域の自然の写真をスライドショーにして上映するなどの工夫が考えられる。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

本指導案では、導入に「動物あてゲーム」を取り入れるのもよい。具体的な手順は次のとおりである。絶滅が危惧される動物の名前を書いたカードを生徒に配り、生徒は動物の名前からイメージする言葉をカードに記入する。カードを回収し、書かれたイメージを教師が読み上げ、生徒は、イメージする言葉から動物の名前を当てる。さらに、これらの動物から共通点を見付けることで、絶滅が危惧される生き物に関心をもたせたい。

ア 展開の工夫

学習の展開の中では、資料名を「アムール・ドゥ・ラ・メール」とし、資料の中の「アムール・ドゥ・ラ・メール」の意味を空欄にし、生徒に意味を考えさせるという展開も考えられる。

(4) 参考資料

「カンムリウミスズメの海を守ろう！」 (財 日本野鳥の会)

「野鳥」 (2009年9・10月号 財 日本野鳥の会)

(倉橋西中学校 水谷修之)